「羽島郡二町キッズウィーク」の実施について

羽島郡二町教育委員会

１　はじめに

羽島郡二町教育委員会は「様々なかかわりの中で学び、社会の一員として貢献できる社会人の育成」を基本理念とし、学校や地域が共に子どもを育てる主体となるよう基盤づくりを進めている。その一つに「羽島郡二町キッズウィーク」の実施がある。キッズウィークは、平成３０年度より実施しており、令和４年度は土日を含めて９連休となる１０月８日（土）～１６日（日）に実施した。感染症への対策を十分に行う中で、大人と子どもがふれあう機会を充実させることにより、今以上に親子の絆を深めたり、子どもたちと地域とのつながりを強めたりしたいと考えている。

２　目的

子どもたちが家庭や地域との関わりの中で、自らの可能性を広げ、自立力を高めていくことを目指すとともに、学校・家庭・地域がひとつになった教育力を高める。

３　取組の様子

（１）児童生徒、保護者、地域への周知

・４月：保護者向けにキッズウィークを含めた年間の長期休業日の案内を配付した。また、町内各所（幼・保、商工会、社協等）に文書を配付し、キッズウィークの実施を周知した。

・８月：保護者向けに再度案内とチラシを配付し、キッズウィークで目指すことや取組例を示した。地域には、ポスターの掲示とチラシの配付を依頼した。

・９月：各学校に事前指導資料を送付し、児童生徒が計画的に過ごせるよう指導を依頼した。

（２）子どもたちの居場所づくり

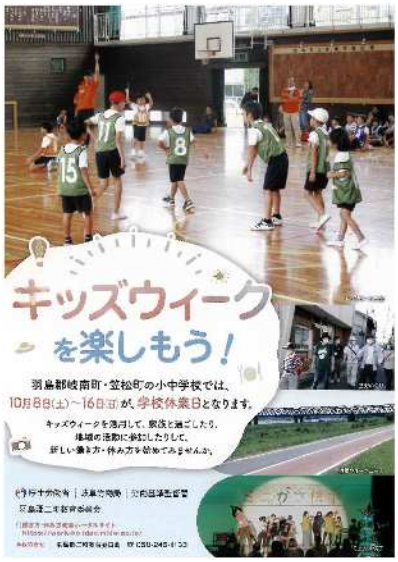
・保護者が会社等を休めない子どもに対応するため、放課後児童クラブの平日終日開設を依頼した。

・公民館等において子ども向け講座を依頼したところ、製作、調理、運動、自然など、子どもたちが自分の興味・関心に応じて活動や体験できる講座を幅広く開催することできた。（下表参照）

・年度当初、町内各所にキッズウィークを周知したところ、子どもたちが参加できる行事をいくつか開催していただけた。健康ウォーク強化 day、ミニかさ横丁（かさまつ子どものまち）、かさまつり、伝統文化講演会、ぎなんフェスタなど、各団体の協力により、子どもたちが様々な世代の方と関わる機会を多く設けられた。

キッズウィーク中の公民館講座等

		岐　南　町	参加	笠　松　町	参加
9日	日	自然体験教室	24		
10日	月	小学生交流ドッジボール大会	80	消防士体験教室	5
11日	火	キラキラレース宝箱をつくろう	15	サッカーを楽しみませんか？	21
				キッズウィーク子どもフェスタ(8ブース)	38
12日	水	ハロウィンマグカップ作り	12	サッカーを楽しみませんか？	12
				キッズウィーク子どもフェスタ(8ブース)	43
13日	木	AT ねんどでかわいいケーキをつくろう	8	飾り切りウインナー教室	8
		岐南・れきし・まち歩き	12	五平餅をつくってみよう！	5
14日	金	かわいい紙の花アクセサリー	9	あなたの防災、手助けします！	2
		昔遊び体験教室	11	楽しく環境教育	2
15日	土			タイルを使ったコースター制作	15
				わくわく広場(7講座)	34



４　取組を終えて

キッズウィークは今年度で５年目（実施４回目）となる。これまでも実施後にアンケート（一部学年の抽出１学級とその保護者）をとってきたが、今年度は、より多くの児童生徒と保護者にアンケートをとり、その結果をふまえて今後の取組を検討することにした。

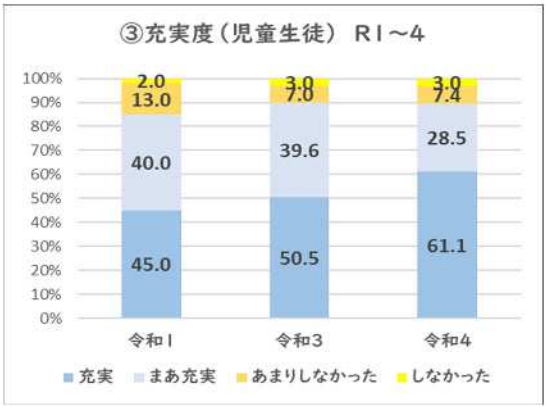
（１）令和４年度のアンケートより

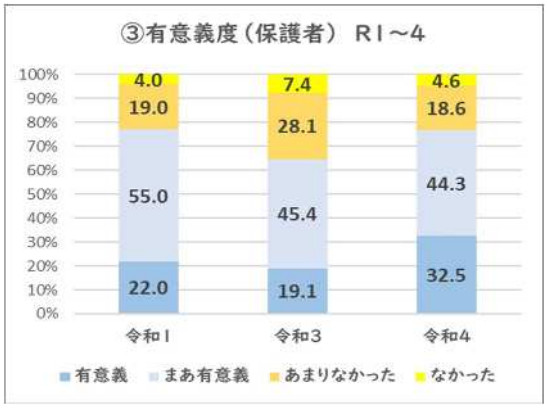
小学３年生以上の児童生徒と全ての保護者にアンケートを実施し、児童生徒 2,470 名（回答率 85%）、保護者 2,177 名（同 71%）から回答を得た。その結果は次のとおりであった。

アンケート内容	児童生徒		保護者	
	肯定的	否定的	肯定的	否定的
① キッズウィーク中、家族とふれあう時間は増えたか。	83%	17%	70%	30%
② キッズウィーク中、地域と関わる機会はあったか。	42%	58%	41%	59%
③ キッズウィークは充実していたか。有意義なものであったか。	90%	10%	77%	23%

・家族でお出かけ、遊び（ゲームを含む）、運動をして過ごした家庭が多く、手伝いや料理を通してふれあう家庭もあった。３年度と比べ、肯定的な保護者の割合が、小で 12%、中で 4%増えた。
・今年度は地域の行事に参加した児童生徒が多く、部活動やスポーツ少年団で仲間と活動する子もいた。３年度と比べ、肯定的な保護者の割合が、小で 21%、中で 2%増えた。３年度と同様、約６割の家庭が普段と変わらないと回答した。
・児童生徒にとってキッズウィークが充実した要因は、自分のめあてをもち計画的に過ごしたこと、家族や地域の一員としての自覚をもって過ごしたことである。

（２）令和元年度からの推移より





・年々、充実していたと答える児童生徒が増えている。キッズウィークの過ごし方を身に付け、楽しみにしている児童生徒が多いと考えられる。但し、約１割の児童生徒への支援は必要である。
・保護者においても有意義だったと答える割合が増えており、ある程度の理解を得られていると言える。キッズウィーク期間の見直し等の意見もあり、その割合は全体の約４％を占めている。

５　今後に向けて

羽島郡二町キッズウィークは、多くの家庭の中に定着してきており、児童生徒の充実度や保護者の有意義度は高まってきている。また、地域の中にも周知されつつあり、各団体から協力を得られている。

一方、様々な家庭環境があり、実施にあたり配慮が必要な家庭も一定数（２～３割）ある。再度、キッズウィークの趣旨を周知する必要があり、児童生徒が自分に合った過ごし方ができるよう、自分はどう過ごすか考えさせることが必要である。保護者に対しては、家庭や地域との関わりの中で児童生徒が自立力をつけ自分を高めていくよう支援することが大切であると周知したい。また、共働き家庭においても、子どもが地域の方とのふれあいや学びができるような場を考えていきたい。